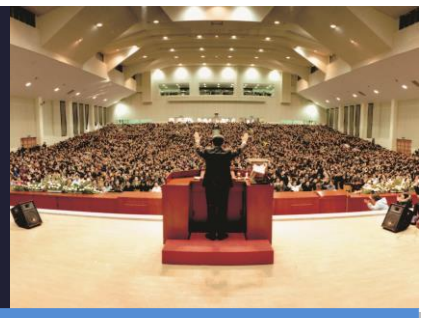
第 2017-27 号

恵みと真理のニュース



2017 年 7 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　神様はリュウマチ性の関節炎を癒してくださり、私の人生に豊かな救いの恵みを与えてくださいます

私の家庭は母が村の執事から伝道されイエス様を受け入れる前まで祭祀をして偶像崇拝をしました。母は田舎で家庭の大人達の反対で辛うじて区域礼拝だけ参席していたが、ギョンギトのグンポに引っ越しをしてから主日の礼拝を捧げました。続いて姉も結婚して恵みと真理教会の区域長の伝道で教会に行って熱心に神様を仕えました。私が会社に入って職場の近くで友達と共に暮らして月一回に家に行ったら母と姉は"教会に一回だけでも行こうと強く誘いました。そうすることに私は絶対に嫌だと言い断りました。

私が28歳になった時、秋のある日から寝て起きたら手がしびれて指の節がよく開かなかったです。一週間後は手首と指の節までかたくなりました。近くにある漢方病院に行って針を打ってもらっても治る気もなかったです。2年間、あちこち漢方病院に行ってみましたが、状態はもっと悪化されむくんだ手首では続けて熱が出て指の骨がうちわのように変わりました。膝も同じ症状が出て歩くことに引きずりました。

歩くのが大変で隣で友達がカバンを持ってくれて後ではバースまで乗れなくなってタクシーだけ乗らなければならなかったです。一日二日だけでなく友達に負担をかけるのようで迷惑をかけると思って急に運転免許を取って中古車を買って運転をしました。しかし、手首がとても痛くなってハンドルを曲げなくて足首も痛くてアクセルを押すのさえできなくなってただ車を止めておく時が多くなりました。会社の課長が私と同じ症状だがら病院に行ってみて血液検査を受けなさいと言われました。検査結果リュウマチ性関節炎でした。まだ結婚もしなかった私には青天霹靂のような宣告でした。これから私がどんな治療を受けたらいいですか？医師に聞くとただ、痛い時に病院に来て注射をうけばいいです。と言われました。家に帰ってくるときに涙が止まらなかったです。毎日たくさんの針で刺されるような痛みなのに痛い時だけ病院に来て注射を受けなさいと言う話を聞いて腹が立ちました。この病気の症状がどのようなるのか、私がどのように痛いなのか何も知らない医師のようでした。それで、再び漢方病院んに行って治療を受けて会社の課長の紹介でソウルにある専門病院で治療を受けながら続けて薬を飲みました。

これ以上迷惑かけないように会社を辞めました。友達は親と一緒に暮らすようにと勧めました。しかし、痛くもないように見えるのに長女が痛くて職場に通わなくて家にいる姿を見ると家族の心がとても痛そうで親がいる家庭に入ることが出来ませんでした。友達にも申し訳ないから一人暮らしをしました。死んでも一人で死ぬのが良いと思いました。どんどん生活費がなくなり、おおかった友達と同僚も会えなくなりました。目の前が見えなくて不安感と痛みで日々が辛かったです。　顔のほお骨に卵の大きさほどの染みもできました。ある日は顔を見ながら本当に死ぬのではないかと思って痛い体ですが、アルバイトを始めました。痛くてどうしてもできない時には辞めて再び働いて休んで繰り返しました。

そうするうちにある日、教会が目に入りました。あてもなく家の近くにある教会を探しました。礼拝等に入ってみたら私の後ろに立っていた執事かこんにちは、お会いてできてうれしいです。今日教会に初めてきましたでしょう。この礼拝が終わって私を会ってから帰ってくださいね。と言ったのがまるで天使が私に声をかけたようでした。礼拝の間ずっと気分が良かったです。それで、その日、青年部の集まりにも参席して久しぶりに楽しく家に戻って来ました。

平日礼拝も参席しながら御言葉に恵みを受けて信仰が大きく育ちました。夜ことに教会に行って"神様、イエスキリストを信じる聖徒に苦難も祝福ですよね。私の病気も癒してくださって結婚もするように導いてください。涙を流しながら神様に切にいのりました。翌年は青年部の会長として青年達を仕え賛美団と聖歌隊でも熱心に奉仕しました。すると神様は私が健康でもなかったにも関わらず正規職の社員として会社に入るようにしてくださって過去の経歴を認定を受けてその給料に合わせて働くように神様が摂理してくださいました。

知人の紹介で旦那に出会いました。初めは彼が教会に通わないと言って嫌だと断ったが会って伝道しなさいという話を聞いて会ってみました。私が見るには貴公子のように見えました。私の退勤の時間になると彼が会社の前まで来て私を待っていておいしい夜ごはんを買ってくれました。本格的に付き合ってから私の病気を話してこれからも続けて薬を飲まなければならないし、それによって子供を持っても私と子供の状態がどうなるかわからないともしかして子供がいなくて生きるかもしれないと言いました。そうしたら私だけ良かったら良いと教会も結婚したら通うと約束をしました。

薬を飲むのが本当に嫌で1年前から薬を飲まなくて病院も行かなかなかったですが、彼氏に出会ってから病院に行きました。行って血液検査をはじめ様々な検査を受けてそのまず薬の処方を受けて家に帰って来ました。変ですが、新しい薬を飲みたくなかったです。後で検査の結果を見てから飲もうと思って一か月後に病院に行きました。医師は検査結果をよく見て笑いながら“驚いたですがリュウマチ性の関節炎の数値がなくなりました。薬を飲まなくても良いですね。ハレルヤ！私は"神様、感謝します。感謝します。”と他の言葉は出なかったです。

とてもうれしくて病院のドアを出るやいなや大きい声で泣きました。人々が多くいても関係なく大きい声を出して泣きました。牧師と家族にも電話をして良い話を伝えました。"あ！神様は本当に生きておられるのだ。治らない病気というリュウマチ性の関節炎を患って8年ぶりに神様の恵みで病気の苦しみから解放されました。すぐ教会に走って行って神様に感謝の祈りをしました。神様が私を苦難の中で純金のようになって主に用いるに良い器で作ったでしょう。と思ったら感謝と涙の涙が止まらなかったです。

ついに結婚式をして翌年に健康な子供を出産しました。妊娠をしたら今まで飲んだ薬の成分が体の中に残っているのを考えるととても心配になりました。不安を無くすため妊娠6ヶ月から出産直前まで聖書を全部読みました。子供の健康のため祈る心で声を出して聖書を読んでおなかにいる赤ちゃんに御言葉を聞かせました。聖書を開いたらすべての恐れと心配がなくなり心が平安に

なりました。もっと神様に感謝するのは旦那が約束を守って結婚式の後、初めの主日に私と共に教会に来てイエスさまを受け入れて信仰生活をするようになったのです。ハレルヤ！

感謝するのは旦那の職場に沿ってイワン市ブコクで引っ越しをするようになって、実家の母と姉が仕える恵みと真理教会で参席してもっと聖霊に満たされた信仰生活をするようになりました。聞いた通り初めの礼拝から当会長の牧師の説教を聴き大きく感銘を受けました。息子がすくすく育て今は小学校3年生ですが、旦那と息子が日々御言葉の恵みと聖霊の働きで成長し成熟になりました。すべての面で誠実な旦那を出会うように導てくださった神様に感謝します。

私に対する神様の恵みと愛は終わりがないです。私たちが結婚して3年になった時に旦那の会社で集金したことが間違って大きな金額を横領したとはぬれぎぬを着せて裁判をするようになりましたが、神様がその濡れ衣をきれいにそそいでくれました。また、旦那が名節になって旦那の実家に行くと祭祀をする時に伏し拝むのが心を痛んで悔い改めましたが、驚いて感謝することは神様の摂理でもう祭祀をする時に伏し拝まなく家庭福音化のため代わりに祈りました。私の祈りを聞いて今まで断食しながら祈ってくださった区域聖徒達にも感謝します。

長い不景気で建設会社が一つ二つ滅びる時に神様はちょうど良い時期に通っていた会社を辞めるように摂理してくださいました。何回の危機も良く乗り越えるようにしてくださり、新しい事業場も与えてくださいました。それだけでなく、神様は私の願いも聞いてくださいました。私が熱心にお笑い治療士の資格も取るように導いてくださり、また歌の講士の資格も取って楽しく福祉館などで大人たちのため奉仕するように導いてくださいました。

私は息子に"これから問題があってもどんな状況でも神様をいつもまず先に仕えてから父と母を愛しなさいと頼みました。神様を信じ仕えるのはとても大事で福であるか骨深く悟った私なのでこの世の何より大事な信仰の遺産を譲るため私から努力しながら息子を教育させています。息子と私たちの夫婦はいつどこても相変わらず主だけを愛し仕えるように願います。

私は今、実家の家族のため神様に切に祈っています。母が以前私が患っていたリュウマチ性の関節炎で苦労しておられ、兄は酷いうつ病を患っています。私の病気と救いのため母と姉が切に祈ったのを考えると心が切になり一方で神様の恵みで癒されたのを考えながら希望を持って祈っています。神様は以前はしなかった親孝行を今する娘になるようにしてくださいます。そして、母親の以上で週と舅姑を愛し仕えるようにして褒められる嫁になるようにしてくださいました。

毎日、"神様ここまで導いてくださったこと感謝します。今日の全てが全部神様の恵みです。”と告白します。以前も与えてくださって今日も与えてくださる恵みと愛に感謝し、明日与えてくださる恵みと愛を考え私の主に感謝賛美をささげます。天の父、この娘が神様を愛にまた愛します。

［信仰コラム］　恨まないで全ての事について感謝しなさい

"また、ある者たちがつぶやいたように、つぶやいてはならない。つぶやいた者は、「死の使」に滅ぼされた、すべての事について、感謝しなさい。"(コリント人への第一の手紙 10:10、テサロニケ人への第一の手紙 5:18)

その人の信仰状態を表してくれることがいくつかあります。その中で感謝する態度は信仰状態を比較的に容易くまた、明らかに見せてくれることです。神様に対する感謝と信仰の深さは比例します。従って、聖徒達は全ての事について神様に感謝する生活をするのが目標にならなければなりません。全ての事について神様に感謝する聖徒になるために必ず実践して適用すべきのこととその結果に関して調べてみましょう。

第一、恨みと不評を治めるべきです。

恨みと不評は感謝する心を消滅させて神様の懲罰をもたらします。聖徒達が恨んで不評する理由を大略５つに分類することができます。一、否定的で悲観的な性格のためです。このような性格を持った人は自分が直面した物事の暗い面だけに執着する傾向があります。そうすると判断力が均衡を失くなり、それが癖になってしまうと結局には性格化になってしまいます。欠点を探すことだけに偏重されないようにすべきです。二、満足を知らないからです。恨みと不評は不満から始まり、不満は過欲によります。感謝を消滅させる過欲は果敢に捨てるべきです。また、不満を予防するためには自分が所有して享受することを当たり前なことに扱う考えを捨てなければなりません。人が一生の間食べて、飲んで、使う全てのことの根本と根元は神様の恵みによることです。また、現在という時間と持っていることを大切に扱わなければなりません。多くのことを所有した人が富者ではなく現在にあることを鑑賞しながら喜びと感謝で享受する人が誠な富者であります。三、神様の約束に対する信仰の不足のためです。聖書には聖徒達のために言約なさったお言葉が数多くあります。このような約束を固く信じると恨んで不評することはなくなります。四、神様の計画と思いに対する理解不足のためです。神様はイスラエル子孫のために偉大な計画と善の思いを持たれて荒野の道に導きなさいました。イスラエルの民族はこれを理解することができなかったので"私達を荒野で死なせるために導き出した。"と恨んで不評しました。五、神様の能力に対する信仰不足のためです。恨みと不評は全能な神様に対して不信する心から生じます。

第二、全ての事について感謝する秘訣があります。

一、神様の助けを期待して神様の摂理を信頼すると全ての事について感謝するようになります。神様は愛と権能の手を伸ばして彼の子を助けてくださいます。事を主観なさって治められる神様の能力は奇妙であります。二、救いを受けた事実だけでも満足できたら全ての事について感謝するようになります。イエスキリストを信じて良くなったことの中で一番は救いを受けたことです。残りは救われたことに比べるとわずかなことです。救われた事実から始まる神様に対する感謝がますます満ちると溢れ出て礼拝と伝道、奉仕と礼物を捧げることとして表れます。キリストの中にいる者は全ての事について感謝することができる十分な理由があります。

第三、全ての事について感謝するとそれに合う結果を得ます。

一、健康に有益です。感謝によって心が楽しく平安になると疾病の予防と治療効果も従います。二、良い隣人が多くできて他人の助けを受けます。感謝する人にはもっとあげたいのが人情の常であります。三、試みに陥りません。ともすれば試みに陥る人を見ると感謝が干からびています。四、信仰が成長して堅固になります。五、約束なさったお言葉が自分に叶えられることを体験するようになります。"感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる。自分のおこないを慎む者にはわたしは神の救を示す。"、"おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。"と言われたお言葉が生活にその通りに叶えられることを体験することができます。

皆さんは恨み、不評をしないで全ての事について神様に感謝してください。感謝する聖徒に向いて伸ばす神様の御手を握って人生の道を歩む幸福を享受してください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

強情にならないようにしなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

‘強情になる’と言う言葉は性質が荒くて押しが強いという意味で解釈されます。 人間の強情に対してエレミヤ書 7 章にこんなに記録されました。 **“しかし彼らは聞き従わず、耳を傾けず、自分の悪い心の計りごとと強情にしたがって歩み、悪くなるばかりで、よくはならなかった。 あなたがたの先祖がエジプトの地を出た日から今日まで、わたしはわたしのしもべである預言者たちを日々彼らにつかわした。しかし彼らはわたしに聞かず、耳を傾けないで強情になり、先祖たちにもまさって悪を行った。”(エレミヤ書, 7:24～26)**. ここでエレミヤ予言者は ‘強情’という言葉を使いながら何種類の態度を形容しました。 神様の音声に耳を傾けないこと、神様を向けて背を向けること、聴従しないこと、首を固くすることなどです。

今日の本文の **8 節に “あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない。 ”** したし、**13 節には “心をかたくなにする者がないように”** したし、**15 節にも “あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない”** としました。 このように ‘強情した心’を持たないでと重ねて強調を勧告しました。 聖書には ‘強情’という言葉が主に神様の前での反抗的な人間の態度に対して使われています。 本文に記録された“強情にしてはいけない”と言うお話は神様との関係で私たちが実践しなければならない心得と行動に対する勧告や命令です。 対人関係では非常に穏やかながらも神様を対しては強情した人がたくさんいます。 このような人は人々には好評を得ても神様には捨てるようになります。
本文に **“きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、荒野における試錬の日に、神にそむいた時のように、あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない。”** としました。
‘神様の音声’は神様のお言葉を意味します。 人が神様のお話をきくようになる経路は二つです。 神様がおっしゃるお話を直接きく場合と間接できく場合です。アダムとエバと、アベルとカインは神様の音声を直接に聞きました。その後には神様が選別的に神様の音声を聞かせました。 神様がモセに親しくおっしゃいました。一つ特別な事件はイスラエル子孫が市内山の下で同時に神様の音声を持ちました。ヨシュアも神様が親しくおっしゃるお話をききました。神様は予言者に親しくおっしゃいました。 これらになさったお話が聖書に記録されました。神様が時になって救世主イエス様を世の中に送って人生に親しくおっしゃいました。 イエス様のすべての行績は神様が人生におっしゃるお言葉そのものです。 今日私たちは予言者と使徒を通じて記録された神様のお話である聖書を持ちました。 聖霊が聖書で私たち各人に神様のお話をきかせます。 神様のお話を大きく二つの種類で分ければ約束と命令です。 約束のお話はきく者に信仰を要求します。 命令のお話はきく者に従順を要求します。 信じて従順しようとすれば心が強情にならないようにしなければなりません。

本文に **“あなたがたの中に、罪の惑わしに陥って、心をかたくなにする者がないように、「きょう」といううちに、日々、互に励まし合いなさい。”** としました。
‘罪の誘惑’が私たちの心を強情させる原因です。 罪の誘惑と言うのは神様のお話より自分感情と考えを先に立たせようとすることを言います。 モセは偉大な人物です。 それなのに罪の誘惑に揺れたことがあります。 イスラエル民の中に混ざっている雑族が不平を言ったらイスラエル子孫も泣いて不満を吐露するのを **“また彼らのうちにいた多くの寄り集まりびとは欲心を起し、イスラエルの人々もまた再び泣いて言った、「ああ、肉が食べたい。 われわれは思い起すが、エジプトでは、ただで、魚を食べた。きゅうりも、すいかも、にらも、たまねぎも、そして、にんにくも。
しかし、いま、われわれの精根は尽きた。われわれの目の前には、このマナのほか何もない」。”(民数記 11:4～6)** しました。 するとモセが神様に申し上げました。 **“わたしはどこから肉を獲て、このすべての民に与えることができましょうか。彼らは泣いて、『肉を食べさせよ』とわたしに言っているのです。 わたしひとりでは、このすべての民を負うことができません。それはわたしには重過ぎます。”(民数記 11:13,14)**. モセはまるで自分の能力でイスラエル子孫をガナアンで導いていることのように言いました。
モセはもう一度大きい間違いを犯しました。会衆が水がないので集まってモセとアロンを責めました。 神様がモセに指示するのを “あなたは杖を取りなさい。あなたとあなたの兄アロンが会衆を召集して彼らが見る前で岩に言い付ければそれが水を出すでしょう。このように岩で水が出させて会衆と彼らの家畜が飲ませなさい。”としました。
モセが盤石の前に集まったイスラエル民に **“「そむく人たちよ、聞きなさい。われわれがあなたがたのためにこの岩から水を出さなければならないのであろうか」。”** してその手をあげて杖で盤石を二度打ちました。 水がたくさん湧いて出るので民と彼らの獣が飲むようになりました。 ところで神様がモセとアロンにおっしゃるのを **“あなたがたはわたしを信じないで、イスラエルの人々の前にわたしの聖なることを現さなかったから、この会衆をわたしが彼らに与えた地に導き入れることができないであろう」。”** としました。 神様が盤石を命じなさいと言ったらそのまま命じなければならないのにモセは杖を持って盤石を二度打ちました。 強情になるということは神様のお言葉をそのまま受け入れない態度を言うのです。

本文に **“あなたがたの中に、罪の惑わしに陥って、心をかたくなにする者がないように、「きょう」といううちに、日々、互に励まし合いなさい。”** としました。
神様が私たちを捨ておけば私たちは生まれつきの本性と罪の誘惑によって強情を免れることができないだろう。 神様の恵みでなければ私たちが強情になることを免れることができないです。 だから私たちは強情になることを免れさせてくれと神様に謙遜に叫んで切に求めなければなりません。 また罪の誘惑で私たちの心が強情になることを免れるために聖徒は会ってお互いに勧まなければなりません。
“ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。”(ヘブル人への手紙, 10:25) としました。 神様のお話をきくために集まらなければなりません。 教会に集まって礼拝しなければなりません。 説教は勧勉するお話です。

そして聖徒は多くの奉仕の集まりに参加してお互い勧勉する仕事をしなければなりません。強情にならないように勧勉しなければなりません。 ‘ただ今日と称える間’と言いました。 ‘明日から’と言ってはいけないです。 勧勉を受ける直ちに強情した心を捨てなければなりません。
強情になることを免れるために必ず実践しなければならないことがあります。 すべての事に神様に感謝する事です。 もしイスラエル子孫がすべての事に感謝したら心が強情にならなかったはずです。 モセも同じです。 民の恨みが気持ち悪くてもこんな輩らを導くように能力をくださった神様に感謝いたさなければならなかったです。 彼が神様に感謝したらそんな大きい間違いをしなくなったはずです。 そしてガナアン地まで民を導く楽しさを享受することができるようになったはずです。 皆さんは生のすべての分野と日々を感謝に満たしてください。
本文にこんなに記録されました。 **“もし最初の確信を、最後までしっかりと持ち続けるならば、わたしたちはキリストにあずかる者となるのである。” (ヘブル人への 手紙 3:14)**. 初めて信仰、初めて愛を維持して回復するために努力しなければなりません。 ちょっとしたことでも喜んで神様に感謝する初めて信仰、初めて愛を持たなければなりません。 強情になることを免れさせてくれと神様に切に求めなければなりません。 心が強情になれば神様がくださる幸せと恵みを受けることができないだけなく受けた 幸せと恵みまで喪失するようになります。 エジプトから出てガナアンで行ったイスラエル民がそうでした。

本文に記録されるのを **“だから、聖霊が言っているように、「きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、 荒野における試錬の日に、神にそむいた時のように、あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない。あなたがたの先祖たちは、そこでわたしを試みためし、 しかも、四十年の間わたしのわざを見たのである。だから、わたしはその時代の人々に対して、いきどおって言った、彼らの心は、いつも迷っており、彼らは、わたしの道を認めなかった。 そこで、わたしは怒って、彼らをわたしの安息にはいらせることはしない、と誓った」。” (ヘブル人への手紙 3:7～11)** しました。彼らの心に驕慢と貪欲が入って来るようになったらエジプトから解放されて乳と蜂蜜が流れるガナアンに行っているという初めの喜びと感激が消えてしまいました。 彼らの心が惑いされて神様の知恵と能力で導きするのを心が分からなくて恨みと不平をぶちまけておきました。 そして心が強情になった彼らは乳と蜂蜜が流れる企業の地ガナアンに入ることができずに荒野で死ぬようになりました。

聖徒の皆さんは強情になることを免れて一様な姿勢に信仰生活を営んで行くように願います。 **“もし最初の確信を、最後までしっかりと持ち続けるならば、わたしたちはキリストにあずかる者となるのである。”(ヘブル人への手紙,3:14)**は本文が皆さんのためのお話になるように願いします。